

【③韓国教員大学校（韓国）】留学体験報告書（1）

留学時の 本学の所属・学年	特別支援教育教員養成課程 初等教育部 3年
留学期間	2019年9月1日～2019年12月13日 (出発：2019年9月1日 帰国：2019年12月18日)
留学の目的・動機	高校生の時から韓国の文化や言語に興味関心があり、大学のパンフレットを見て、自分の目や体で韓国の文化等に触れたいと思ったから。 大学に入学して、韓国語の授業を履修し、自身の韓国語がどれくらい現地で通用するか気になったから。 そして韓国では自分の専攻でもある特別支援教育がどのように行われているのかを学びたかったから。
留学の準備を始めた時期	大学2年生の夏頃から。
情報収集方法	以前韓国教員大学校に留学されていた先輩や韓国語の先生から
ビザ取得に要した時間	約2週間
ビザ申請時の注意点	申請時の書類の書き方を確認すること 学校によっては口座の残高証明が必要な場合があること
奨学金受給の有無及び 奨学金名（金額）	奨学金受給 有 奨学金名：馬場財団国際理解教育人材養成奨学金（月10万円）
求められた語学力 及び具体的な準備内容	TOPIK3級以上
授業クラスの状況 (人数、内容等)	20人程度、グループワークやグループ発表、個人発表など
履修科目について	履修科目数：2学期 4科目（内4科目単位修得）
受講を勧める科目	生活と卓球、初等教養合唱（理由：現地の学生と一緒に活動する機会が多く、これらの授業で友人がたくさんできたから）
学年歴 (学期・試験・休暇等)	2学期（2019年9月2日～12月13日） 試験（12月初旬～中旬） 冬休み（12月中旬～2月末）
留学先までの交通手段	福岡空港～仁川空港 所要時間：約1時間半（飛行機） 仁川空港～清州高速バスターミナル 所要時間：約2時間半（バス） 清州高速バスターミナル～韓国教員大学校 所要時間：約20分（バス）
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	チューターがついて、履修についてサポートしてくれる 留学生担当の部署がある

学習環境	できたばかりの大きな図書館がある 寮にはWi-Fiもあり学習しやすかった
居住環境	寮でドイツの留学生と2人部屋、シャワーとトイレは部屋に完備、共同のトイレもあった。洗濯機は最上階にあり、共同。各階にウォーターサーバーがあった。
留学する際に持参した方がよいもの	マスク、厚手の上着、防寒具
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	バスやタクシーなどの交通費は安い 物価は特に日本と変わらない
留学にかかる費用 (渡航費、生活費を含む)	総額 約38万円 (内訳) 生活費 約10万円 寮費 約12万円 渡航費 約6万円 海外旅行保険料 約10万円 など
治安状況	夜遅くに一人で出歩くのは避けたほうがいい。昼間は特に気になることはない。
その他注意すべき事項	チューターの学生が日本語を話せるとは限らないため、日常会話ができるくらいの語学力を備えていたほうがよい。 他の学生はすでに履修登録が終わっており、人気の授業は受講人数が埋まっていたため教授にメールして受講できるかどうか確認する必要があった。
留 学 ・ 語 学 研 修 等 体 験 レ ポ ー ト (自 由 記 述)	
<p>私はこの留学を通して大きく2つの能力を身につけることができた。</p> <p>1つ目は語学力である。留学するにあたりTOPIK3級以上が条件としてあり、その条件を満たすため、留学以前から韓国語の勉強にはかなり力を入れていた。そして条件を満たし、留学すると自分が学んできたことを恥ずかしがることなく、言葉にすることができた。留学先でチューターの学生に教科書では学ばない実用的な韓国語や、より自然な韓国語を教えてもらいながら、ノートに復習し、実際に使ってみた。すると韓国人の学生からも「韓国語が上手だね。」と言われるようになり、自信もついた。また留学生担当の大学職員の方や教授からも最後の授業に近づくにつれ、「韓国語上手になったね。」と言われるようになった。これは自分にとってとても嬉しく、自身の語学力が留学以前よりもかなり上がったと考えた。</p> <p>2つ目は行動力である。留学先に知り合いがほぼいない状態での留学スタートだったため、最初はとても不安だった。また、チューターの学生も日本語を話せるわけではなかったため、最初は話がスムーズに進まず、少し距離があるように思えた。しかし、一緒にご飯を食べるようになり、チューターの学生が一生懸命自分の話</p>	

を理解してくれようとする姿に、自分から動かないとダメだと思うようになった。それから、「こんな授業を受けたい」、「ここに行ってみたい」、「これを買いたい」、「これはどうしたらいいか」など、自分の思いを自分からチューターの学生に伝えていった。また授業でも留学生ということもあり、最初は学生との距離があるように感じた。そこで授業が始まる前に自分から話しかけてみると、学生はみんな優しく、話に応じてくれた。ご飯に誘ってくれたり、一緒に遊びに行ったりして、友達もたくさんできた。留学以前よりも、恥じることなく積極的に行動に移すことができるようになった。

3つ目はコミュニケーション能力である。語学力や行動力と重なる部分が多くあるが、わからないことや気になることがあると、すぐに人に尋ねるようにした。最初は、緊張や自分の韓国語が相手に伝わらなかつたらどうしようといった不安があった。しかし、自分からコミュニケーションを取ろうとしなければ留学した意味がないと思うようになり、図書館で本を借りて韓国語の勉強をした。最初は韓国語の発音が拙く、なかなか話したいことが伝わらないこともあったが、英語で話したり、ジェスチャーを用いて会話をしたりした。それでも誰一人嫌な顔をすることなく、一生懸命話を理解しようとしてくれた。同じ授業を受講していた韓国人の学生に思い切って話しかけてみると、「自分も話しかけたかったが、人見知りでなかなか声を掛けられなかったからうれしい。」と言われた。その時は、勇気を出して話しかけてみてよかったと心から思えた。その学生と2人でご飯を食べたり、カフェに行ったりと親交も深まった。また、退寮する際に分からないことがあり相談すると、その学生が寮の担当に電話して代わりに尋ねてくれた。これらの経験から、留学以前よりもコミュニケーション能力は高まったと思う。

留学期間の中で、韓国の文化や生活様式などを身近に感じ、たくさんの人と関わる中で教員として必要な幅広い視野を持つことができた。しかし、新型コロナウイルスの影響で、止む無く留学を中止することとなった。特別支援教育については春学期に学ぶ予定であったため、今回の留学期間中に学ぶことができず、とても残念だった。だが、上述のように約3か月の留学期間でも多くのことを学び、自分の目で韓国の文化などに触れることができた。この留学では、国を越えた人の温かさにも触れることができた。教員になってからも人の助けに支えられたことを忘れず、自分も人を助け、支えることのできるように過ごしていきたい。